



新ひだか町善行表彰 **6 / 1**

町は、今年3月に町へ一般資金として多額の寄付をされた酒井や江さん（三石舞）に、善行表彰を贈りました。

これは、や江さんの夫で旧三石町議の芳男さんの逝去にあたって、町へ寄付されたことによるもので、畑端副町長は「現在のみついし牛の発展は芳男さんのご尽力があってこそ、寄付は大切に使用させていただきます」と感謝を述べました。



新ひだか町誕生5周年記念事業 森は海の恋人運動 **5 / 24**

町民の皆さんとの協働によるみどりあふれる環境づくり・豊かな海づくりを目的とした『森は海の恋人運動』国道周辺緑化事業植樹祭が静内真歌で行われました。

春らしい穏やかな天候の中、町民ら約130名が参加し、0.3ヘクタールの敷地に町花のエゾヤマツツジやクロマツの苗木1,100本をクワやスコップを使い、一本一本丁寧に植えていました。



山手小学校田植え体験学習 **5 / 23**

命を育むことの大切さや食糧生産の重要性を学習させようと『田植え体験学習』が山手小学校5年生を対象に、静内稲作振興会（日蔭由昭会長）の協力のもと静内豊畑で行われました。

子どもたちは初めての田植えに悪戦苦闘しながらも、一生懸命心を込めて地元産特別栽培米『万馬券』の苗を植えました。

子ども達は苗が成長し、秋に美味しいお米になることを楽しみにしていました。

ニュースフラッシュ

まちのできごと、話題をお届けします。



新ひだか町誕生5周年記念事業 第6回新ひだか町エプロンピック **6 / 5**

新ひだか町女性団体連絡協議会（野呂順子会長）による『第6回新ひだか町エプロンピック』が町静内体育館で開かれ、エプロンを身にまとった参加者150名が4チームに分かれて熱戦を繰り広げました。

ヘラをバトンにした「ヘラヘラリレー」や運動会には定番の綱引き、玉入れなど全14種目を競い合い、参加者はほとぼしる笑顔でさわやかな汗を流しながら、交流を深めました。



札幌三石会、札幌静内会定期総会 **5 / 29・6 / 3**

旧三石町、旧静内町出身で札幌市近郊に住む方で組織される札幌三石会及び札幌静内会の定期総会がそれぞれ札幌市で開かれました。

札幌三石会には会員34名と町から6名が出席。札幌静内会には会員32名と町から6名が出席し、それぞれ今年度の事業計画等が決定されました。

総会終了後には懇親会が行われ、出席者はふるさとの話に花を咲かせました。



太陽の瞳出荷本格化 **5 / 24**

町特産品のミニトマト『太陽の瞳』の出荷が本格化し、各農家から収穫されたミニトマトが静内本町の撰果場に次々と運び込まれ、選別作業と箱詰め作業で活気づいています。

6月1日からは東京や神奈川など7箇所の道外市場への出荷も始まり、全国各地の食卓に並べられます。

今後11月末まで出荷され、販売目標を1,149トン6億400万円としています。



町長と語らナイト **5 / 20**

町民の皆さんとの対話を通し、町政に生かしていくことを目的とした『町長と語らナイト』が町商工会議所で行われ、町商工会青年部とこれからのまちづくりをテーマに懇談しました。

町商工会青年部では、地域の情報を発信し、中心商店街の活性化につなげようと『ミニFM』放送を検討しており、その活用について酒井町長は「災害時の防災無線に代わる情報提供手段のひとつとして、FMの利用も検討したい」と話しました。



第23回イチャルパ **6 / 5**

北海道アイヌ協会新ひだか支部によるイチャルパ（先祖供養）が、静内真歌のチセ（アイヌ民族の伝統家屋）で厳かに行われ、果物などの供物をささげ、先祖の霊を慰めました。



花いっぱい運動 **6 / 1~3**

町農業実験センターで栽培されたマリーゴールドの苗およそ7万株が自治会や公共施設等に配布され、それぞれ街中の公園や植樹帯等に一本一本丁寧に植えていました。



地域安全キャンペーン **5 / 25**

町防犯団体などによる『地域安全キャンペーン』がピュア前で行われ、静内農高生が栽培したペコニアの鉢花を歩行者に配布し、犯罪防止と安全なまちづくりを呼びかけました。



町有バス観光PRプリント実施 **5 / 18**

観光PRを目的として、町の観光キャッチフレーズ『風かおる 優駿桜国 新ひだか』や二十間道路の写真などのプリントをあしらった町有バスが運行を開始しました。